

希望を未来へーこどもホスピスプロジェクト 公募説明会 2021年2月16日

開始までしばらくお待ちください

- マイクは常時ミュートにしてください
- 質問はチャットでのみ受付ます（後日、質疑一覧を送付します）
- 説明者
 - 原田積善会 稲垣裕志 ・ 戸田章子
 - 希望を未来へつなぐプロジェクト 飯山さちえ
 - JANPIA 見上敦子

希望を未来へー こどもホスピス プロジェクト

(難病のこどもと家族が我が家のように
過ごせる施設を全国に展開)

(公財)原田積善会・(一社)希望を未来
につなぐプロジェクト



休眠預金活用事業

- I. 本事業の目的と狙い
- II. こどもホスピスという社会事業の課題(社会的課題)
- III. 本事業の内容
- IV. 本助成プログラム
- V. 実行団体 * に期待される役割 * ホスピス運営団体・設立を目指す団体
- VI. ガバナンスとコンプライアンス
- VII. 実施体制
- VIII. 出口戦略・持続可能性
- IX. まとめ

1. 本事業の目的と狙い

- 「こどもホスピス」という我が家のように過ごせる場を全国で提供する
⇒ **こどもと家族のQOL (生活の質) 向上が最終ゴール**
- **休眠預金**という社会的器を使って促進の起爆剤に
- 原田積善会は社会福祉一若もの支援に注力して助成活動
- 本事業は「こどもホスピス」にフォーカスする
- こどもホスピス運営団体・設立を目指す団体への支援が目的
- こどもホスピス・ビジネスの底上げ、連携・強化を図る
- 「原田積善会」と「希望を未来へつなぐプロジェクト」の**共同事業**
- 「希望」が非資金的支援・社会的インパクト評価の主体となる

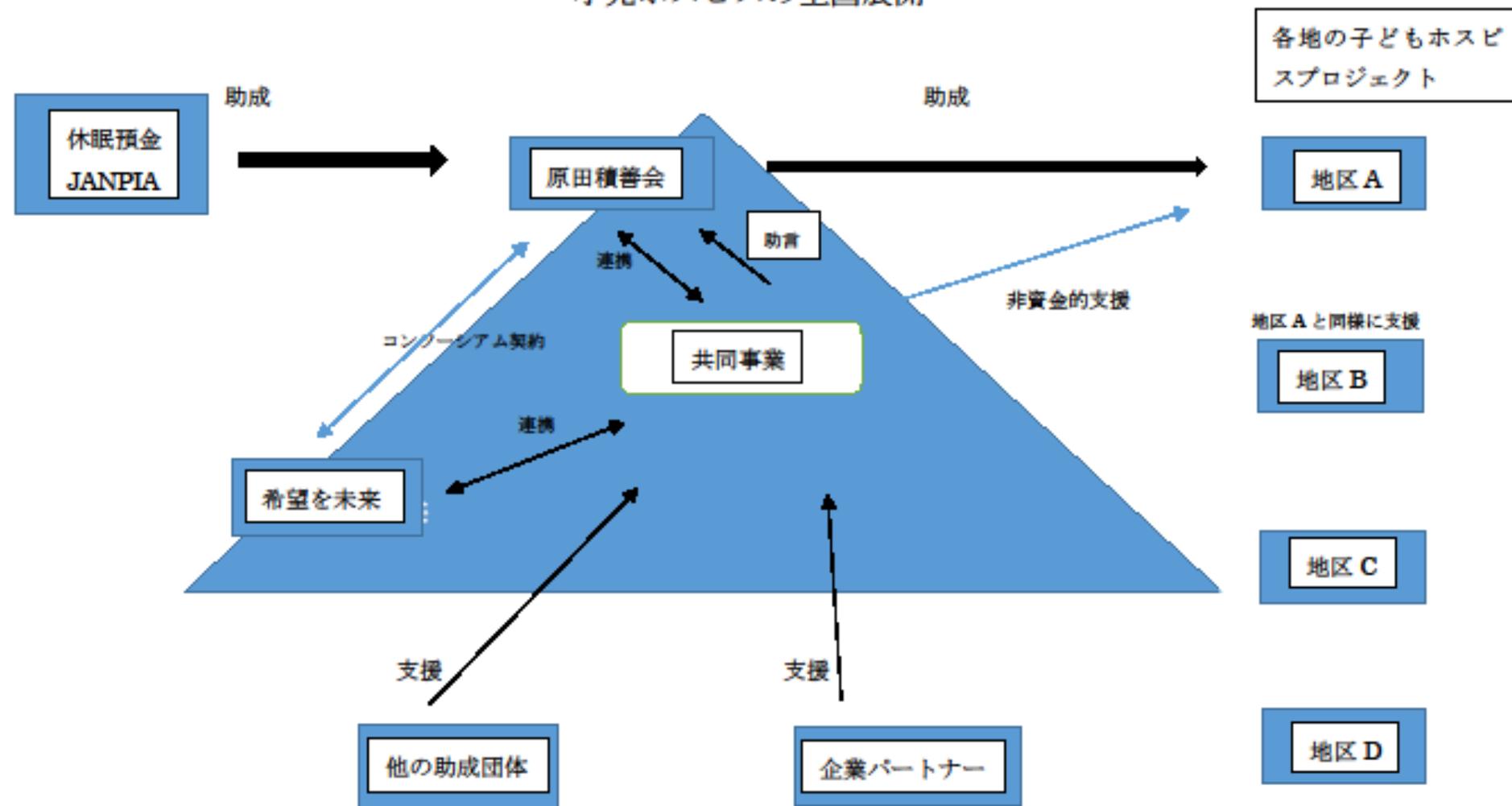
II. 社会的課題 （公募要領4）

- 大阪「淀川キリスト教病院」、「TSURUMI」、東京「もみじの家」等、世界水準のこどもホスピスが設立
- 開設予定の横浜こどもホスピスを含めても運営中は全国数カ所
- 北海道、福岡など各地で設立を目指す団体
- 世界こどもホスピスフォーラム開催などで関係者の気運高まる
- 進まぬ理由、1. 相当な人的・資金的資源の投入が必要、2. 行政による支援が乏しい・望ましくない、3. 社会全体からの認知が足りない
- こどもホスピスを全国に一遠隔地ではニーズに応えられない
- 既往の施設も限られた財源で運営に苦勞
- コロナが追い打ち
- 各実行団体が立ち位置に即した課題の設定と解決策の検討

III. 本事業の内容

- こどもホスピス全国展開のため、こどもホスピス運営団体・設立を目指す団体に資金的・非資金的支援
- 設立・運営に必要な人的・物的資源は大きい
- 実行団体の各々の事業フェーズに応じて推進の起爆剤として助成
- 共同事業は各実行団体向けだけでなく、実行団体同士の連携を高めるように、様々な非資金的支援を行う
- 各実行団体が課題解決のため、各々の事業フェーズに応じた事業・資金計画を策定（公募要領5）
- 「こどもと家族のQOL向上」 ⇒ 「各団体の事業フェーズ」 ⇒ 「適切なアウトカム（3年間の事業期間中に）」

小児ホスピスの全国展開



IV. 本助成プログラム （公募要領 5）

1. 助成対象： ①既存のこどもホスピス、②新規のこどもホスピス、
③こどもホスピスの関連事業を営む団体
（ただし、①および②を優先して取り上げる）
2. コンソーシアムでの応募も可能
3. 対象地域：全国（主要都市）
4. 助成期間：2021年5月末～6月（予定）～2024年3月（確定）
5. 助成金額：1 実行団体当たり20,000,000円を上限
（4-5団体程度への助成を予定）
6. 資金使途：こどもホスピスの設立準備・運営、および運営支援事業
に係る資金

IV. 本助成プログラムー2 (公募要領 5)

1. 助成の決定： (外部委員を含む)選考委員会にて審査の上、原田積善会が決定
2. 資金の提供者： 公益財団法人原田積善会
3. 社会的インパクト評価： 成果目標を事前に設定し、事前・中間・事後の各段階で実行団体からの報告を受け実施。「共同事業」は評価委員会を設置
(実行団体における評価費用について別途支援、助成額の5%以内)
4. 非資金的支援(伴走支援)： 「共同事業」は実行団体に非資金的支援、全国のこどもホスピスの連携・強化
(社会的インパクト評価・非資金的支援の円滑な実行のためにプログラムオフィサーを配置)

V. 実行団体に期待される役割 （公募要領3）

1. 公的制度の「狭間」に位置する社会の諸課題を抽出・可視化
2. 成果に着目し本資金を効果的・効率的に活用による課題解決
3. 民間の創意・工夫を活かし、社会課題を解決する取り組み
4. 成果評価を実施し、自らおよび民間公益活動の向上に活用
5. 現場のニーズや提案、成果を、資金分配団体およびJANPIAにフィードバックし、制度の改善につなげる

VI. ガバナンスとコンプライアンス

- 休眠預金の性格上、透明性と合理性に基づき実効性あるガバナンス・コンプライアンス体制が求められる
- 本プログラム全体（申請資格、助成方針、選定、実行段階）について、この原則が適用される

（公募要領6申請資格要件、7助成方針、11選定時の審査項目、14. 選定後、17監督など）

VII. 実施体制

- 原田積善会と「希望」による共同事業
- 原田積善会の役割: 1.全体の統括、2.助成の決定と実行、3.管理・区分計理、4.非資金的支援、5.社会的インパクト評価
- 「希望」の役割: 1.非資金的支援、2.社会的インパクト評価
- プログラムオフィサー2名:
「希望」飯山さちえ(横浜こどもホスピス、国境なき医師団)、原田積善会戸田章子常務理事
- 外部委員を含む評価委員会(選考委員と兼務)を設置

VII. 出口戦略と持続可能性 （公募要領8）

- 共同事業「希望」は各地のこどもホスピスの連携を図り自立を目指す
- 1.全国レベルでの企業等からの寄附獲得、2.行政との窓口となり必要な措置・支援を獲得する、3.国際的な小児緩和ケア・マニュアルをベースとした有料研修・講習会、4.世界こどもホスピスを始めとする各種フォーラム開催
- 実行団体の持続化—1.地元企業等からの寄附獲得、2.地元ボランティア人材の獲得、3.地元行政からの支援獲得、4.地元マスコミ等を通じた情宣・啓発
- 各地のこどもホスピスと連携の基にこどもホスピスという社会事業を発展させる

IX. まとめ

- こどもホスピスの全国展開は難病のこどもと家族のQOLを高める喫緊の社会的課題である
- この課題解決を促進する起爆剤としての資金的・非資金的支援が今必要である
- 実行団体と「共同事業」はイコール・パートナーとして連携し課題解決に当たる
- こどもホスピス展開は相当な資金的・非資金的資源の投入が必要であり、また、社会的認知を高める意味でも、休眠預金の活用が有効
- **実行団体の積極的なご応募をお待ちしています**